

Title	"累了"との比較からみる"累着了"の表現機能
Sub Title	A functional account of "leizhaole" by comparison with "leile"
Author	李, 菲(Li, Fei)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2012
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.102, (2012. 6) ,p.149(158)- 164(143)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01020001-0164

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

“累了”との比較からみる“累着了”の表現機能

李 菲

1. 問題提起

北京語を代表とする北方方言では、文法構造が異なる二つの表現である“累着了”と“累了”はともに、「人間の身体に疲れが生じたり、疲労が溜まったりする」事態を言い表すのに用いられ、言い換えが可能な場合が少なくない。

(1) a 你累着了吧，快坐下来歇歇。(刘明恒 桂花)

(疲れたでしょう。早く座って休んでください。)

b 你累了吧，快坐下来歇歇。

(2) a 你今天陪了我一天，累了吧？(李锦林 不负苍天)

(あなたは今日ずっと付き添ってくれたので、疲れたでしょう。)

b 你今天陪了我一天，累着了？

(1) a の“累着了”を“累了”に置き換え、(1) b のように言っても文は問題なく成り立つ。また、(2) a の“累了”を“累着了”に変えた(2) b も自然な表現となっている。意味に関しても、“累着了”と“累了”はともに「疲れた」などに訳されることが多いため、両者は一見全く同じ意味を表す表現として用いられているように見える。しかし、次の例に見られるように、両者はお互いに言い換えられない場合もある。

(3) a 和方耀学长讨论了一下午关于论文的写作思路，真的是感觉到有点累了。(叶聪灵 最完美的女孩)

(方耀先輩と午後はずっと論文の構想について話し合っていたので、本当に疲れたなと思った。)

b??和方耀学长讨论了一下午关于论文的写作思路,真的是感觉到有点累了。

(4) a “唔,好——你自己弯腰小心——”宇文老先生说着,忽又发出了一阵轻咳。“爸爸,您又累了!”宇文冰心忙上去扶着他到太师椅上坐下。(林佩芬 洞仙歌)

(「うん、わかった。あなたも腰に気を付けて」と年取った宇文さんは言うと、突然また軽い咳をし始めた。「お父さん、また疲れちゃったでしょう」。宇文冰心はすぐに彼を支えてひじかけ椅子に座らせた。)

b??爸爸,您又累了!

(3) aと(3) bのように、“累了”を“累了了”に置き換えると、非文ではないものの文全体の整合性が低くなる。一方、(4) aと(4) bのように逆に“累了了”を“累了”にすると、同じく非文にはならないが、前後の文脈からみた場合、非常に不自然な表現となってしまう。この二つの例から、“累了了”と“累了”との間に何らかの意味的あるいは表現機能上の違いが存在することが窺えるが、それは一体何であるのか。また、両者は実際の発話の中でどのように使い分けられているのか。本稿ではこうした問題を中心に考察を行う。

2. 「身体的悪影響」を表す“V着了”表現

従来の先行研究において、“累了了”と“累了”の両者を同時に取り上げて、その意味や用法上の違いについて論じた文献は、管見の限り、ほとんどないといってよい。それは恐らく異なる文法要素からなる両者は、そもそも異なるものとして認識されており、その表現としての類似性が看過されやすいためと思われる。“累了”は“累”と新しい状況への変化を表す“了”からなっており、「疲れるという状態へ変化した」ことを表す。一方、“累了了”は「累着” + “了”」の構造からなっており、結果補語“着”¹⁾

からなる“累着”の実現形であり、直訳すると「疲れて具合が悪くなった」という意味を表す。つまり、“累了”と違って、“累着了”は“累”よりも結果補語“着”の表現であるといえる。

ここで、結果補語“着”及び「身体的悪影響」を表す“V着了”表現について少し触れたい。北方方言に特徴的な結果補語“着”は様々な動詞と結びつくことで、大きく分けて二つの結果意を表している。一つは、“买”（買う）、“借”（借りる）などの他動詞に対し「獲得」意を補う用法であり、もう一つは、状態を表す自動詞と結合し、そうした状態が原因で人間の身体に何らかの「悪影響」が生じることを表す用法である²⁾。本稿の考察対象である“累着了”はこの後者の用法であり、“累”という状態が原因となって、身体に悪影響が生じたことを表す。「身体的悪影響」意を表す場合、“V着”は“了”を伴い“V着了”の形で用いられることが多く、“累着了”以外に、“饿着了”“冻着了”なども日常会話において使用頻度が高い用例である。

(5) 人要是饿着了, 就没力气上山采药, 不采药就更没粮食吃了。(林宗愚 寇奴传)

(お腹が空いたら、山に行って薬草を取る力が出ないし、薬草を取らなかったらますますご飯を食べられなくなる。)

(6) 这个孩子穿得太少, 冻着了。[因“冻”而病](刘月华等2001)

(この子はあまりにも薄着をしていたから、風邪をひいた。)[“冻”が原因で病気になる]

本稿ではこうした用例をまとめて、「身体的悪影響」を表す“V着了”表現とよぶことにする。李2011:95-97では、“V着了”表現の意味と表現機能上の特徴は主に次の二点にあると指摘した。

- ① “V着了”が用いられる場合、「人間が自らの性質ではなく、ある行為や状態(=外的要因)によってVの状態に変化させられた」というニュアンスが強い。
- ② 症状や身体の様態についての具体的な描写とともに用いられやすいことから、“V着了”はある症状や様子を目の前にし、その

原因について推測するための表現といえる。従って、“V着了”において動詞Vが実際の状態を表すというより、原因事態として後から継ぎ足されたものと考えられる。

李2011はこの二点をふまえ、“累着了”と“累了”との違いについても言及している。まず①から、身体を疲れさせる外的要因がはっきりと示されている場合、次の例のように、“累着了”を“累了”に置き換えると不自然な文となってしまう。下線部は疲れの原因を示している。

(7) a 不过,草包倒不像头要偷懒的驴,它并不东张西望,只是步态有些踉跄。它不是年纪大了,就是在此之前干了其他的活儿而累着了。(李2011)

(しかし、草包は怠けるようなロバには見えない。草包は決してきよろきよろしない。ただ歩くときに少しよろよろするだけだ。草包は年を取っているのであれば、きっとここに来る前に別の仕事をして、疲れたのだ。)

b “它不是年纪大了,就是在此之前干了其他的活儿而累了。”

また、②から“累了”は人間が実際に「疲れる」という状態に変化したことを表すのに対し、“累着了”では“累”が身体的悪影響の原因として導入されているにすぎず、単に人間が現に「疲れる」という状態にあることを指しているわけではないとしている。ただし、この点に関しては論拠となるような用例は挙げ得なかった。こうした違いが“累着了”と“累了”との間に見られるのなら、必ず何らかの形で統語や表現機能の面にも反映されるはずであるが、実際の用例に基づく検証は李2011ではそこまで踏みこまなかった。

そこで本稿では、実際の用例に見られる“累着了”と“累了”の前後の文脈に注目し、②の考察結果に対し検証をしつつ、両者の違いを明らかにしたい。また、認識のモダリティの一つである証拠性 (evidentiality) の観点からその考察結果を捉え直すことで、両者の違いが本質的にはどこから生じているのかについて論述する。

3. 推測の場合における“累着了”と“累了”

“累着了”がある症状や様態に対し、その原因について推測するとき用いられやすいという特徴は例文(7) aと次の(8)から見て取れる。身体の具体的な様子を描いている波線の部分に注目されたい。

(7) a 不过，草包倒不像头要偷懒的驴，它并不东张西望，只是步态有些踉跄。它不是年纪大了，就是在此之前干了其他的活儿而累着了。(李2011)

(8) 笑着笑着，头突然晕了一下，眼前先是一黑，然后是冒出来一片碎花。到底是年岁大了，累着了。他只好坐在报纸堆上，好好喘息一下。(李2011)

(笑っているうちに、頭が急にめまいを感じ、目の前がまず真っ暗になり、それから細かい模様がちかちかするようになった。やはり年を取ったから、疲れてしまったのだ。彼は仕方なく積み上げた新聞紙の上に座り、深呼吸をした。)

(7) aと(8)における“累着了”はともに、波線部が示す症状や様態の原因を説明するために用いられており、日本語に訳すと「きっと疲れたんだろう、疲れてしまったのだ」といったニュアンスをもつ。つまり、ここでの“累着了”の表現機能は「眼前の事実に対し、その原因について推測して、後から説明を加える」ことである。この場合、“累着了”を“累了”に置き換え、“就是在此之前干了其他的活儿而累了”³⁾“到底是年岁大了，累了”とした場合、文自体は非文ではないが、前後の文脈との整合性から判断するとやはり不自然な表現となってしまう。

では、“累了”にはこのような表現機能が備わっていないのか。“累了”が推測に用いられた場合、その前後文脈にどのような特徴が見られるのか。以下では、陳述文と会話文の二つの場合に分けてこのことについて考察し、“累着了”との差異を明らかにする。

3.1. 陳述文の場合

陳述文における“累着了”の表現機能は(7) aと(8)の例から明らか

になったので、以下では推測を表す陳述文に用いられる“累了”の例について見てみたい。

- (9) 这时店里已经没有什么客人了，大约也快到伙计们开午饭的时候了。一个年纪不小的熟客仔也吃完了饭，却不马上走，和店伙们侃开了大山。钱老板大概也累了，从后厨出来，拉张椅坐下，点着了烟，也听这客仔侃大山。(何启治 中国教授闹纽约)

(この時店にはもう客がほとんどおらず、もうかれこれ従業員の昼食の時間だった。一人の年配の常連客が食事を済ませたものの、まだ帰ろうとはせず、従業員たちとむだ話をしていた。オーナーの銭さんも疲れたようで、奥の厨房から出てきて、椅子に腰かけ、たばこに火をつけて、この客のむだ話に耳を傾けた。)

- (10) 母亲不住地往炉膛里加柴，通红的火焰映着她饱经风霜的面庞。母亲可能是累了，唉叹一声自语道“嫁到老王家几十年了，我还没吃过头锅水饺呢。”(王化清 头锅饺子)

(母は絶えずかまどにまきを加え続け、その苦勞のしわが刻まれた顔が真っ赤な炎に照らされていた。母は恐らく疲れたらしく、「王家に嫁いでから何十年もたつが、まだ最初に餃子を食べたことがないわ」と嘆いた。)

(7) a、(8) と (9) (10) を比較してまず気づくのは、(9) (10) では人間の疲れたときの具体的な様子が特に描かれていないことだ。(7) a、(8) の場合、そうした様子は波線部によって示されており、それを根拠に「主人公がきつと疲れたのだろう」と推測しているが、(9) (10) ではそうした根拠がないままいきなり推測を行っているのである。従って、「眼前の事実に基づく推測」を行う“累着了”に比べ、“累了”はより主観的な推測を表すのに用いられていることがわかる。そして、このことと連動して、“累了”の場合“可能”や“大概”のような副詞と共起しないと推測を表すことができないが、“累着了”はそれらの副詞を伴わなくても原因の推測に用いることができる。

また、(7) a、(8) と (9) (10) の内容を比較してみると、もう一つの違

いが見えてくる。(7) a、(8) では、“累着了”はその前の波線部が示す症状や様態がなぜ生じたのかについて説明を加えているのに対し、(9) (10) では“累了”はその後に述べられている主人公の言動の原因として導入されている。(9)において“钱老板”が“从后厨出来～侃大山”の一連の行動をとったのは明らかに疲れたためであり、(10)の場合、母親の嘆きが身体の疲れによるものと判断されている。“因为”や“所以”のような接続詞がないものの、“累了”の節とその後の節との間に因果関係を見出せる。この点は、前の文脈に対し原因説明を行う“累着了”と最も大きな違いであるといえる。(9) (10)において症状や様態についての描写がないのもこの違いをよく反映しており、“累了”は前の文の内容を受けて現れたのではなく、むしろ後の文の原因事態として導入されているからである。

以上の比較から、推測の場合における“累着了”と“累了”との差異が明らかになったと同時に、「眼前の事実に対し、その原因について推測して、後から説明を加える」という表現機能は“累着了”に特徴的であることが見て取れる。一方、“累了”が推測の文に用いられた場合、この特徴は観察されず、“累着了”とは異なる文脈に用いられている。そのため、前後文脈から(9) (10)の“累了”は“累着了”に置き換えられない。

3.2. 会話文の場合

次は、推測の発話に現れる“累着了”と“累了”の例文をそれぞれ取り上げ、その前後文脈に注目しながら両者を比較してみたい。まず、“累了”の例を先に見ていくことにする。

- (11) 两人像逃难似的跑了半里远。“啊……”程羽冰哀嚎一声，不愿再前进了。“怎么了？是不是累了？”骆斐青轻柔地擦掉她额头上的汗水。“你忍耐一点，等我们到了城里，再买两匹马代步好了。”
(于澄心 笑姻缘)

(二人はまるで逃げ延びてきたかのように半里ほど走っていた。「ああ……」と程羽冰は泣き叫ぶと、それ以上進もうとしない。「どうしたの。疲れたのかな」骆斐青は彼女の額の汗を軽くふき取った。「もう少し我慢して。町に入れば、馬を二頭買ってそれ

に乗って行こう。』)

- (12) 裴振亚说愈激动，脸上的表情也愈来愈难看。“少爷！你是不是太累了？”雷清海小心翼翼地探问着，从小到大，裴振亚一直是个温和谦恭、性情纯良的孩子，他从不曾见过裴振亚发这么大的脾气。（甲后 灰姑娘奇缘）

（裴振亚は話せば話すほど興奮してきて、顔の表情もますます陰しくなってきた。「ほっちゃんはひどくお疲れになっているのでしょうか」と雷清海が注意深く尋ねた。子供の時から、裴振亚はずっと礼儀正しく、性格が穏やかで優しい子だったので、こんなに怒るのを見たのは初めてだった。）

(11) (12) において、話し手は聞き手が恐らく疲れたであろうと推測した上で、それを聞き手に確認するための発話に“累了”を用いている。ここでは、波線部から聞き手の苦しそうな様子が窺われ、それが話し手の推測の根拠にもなっている。この点からみると、“累了”は“累着了”と同じ表現機能を果たしているように見えるのだが、この場合においても“累了”は前の文脈に対し後から説明を加えているわけではないことが見て取れる。(11) (12) における、“怎么了？是不是累了？”と“少爷！你是不是太累了？”の二つの発話は、波線部の様態の原因についての推測ではあるが、前の様態に対し説明や解釈を行っているのではなく、むしろその原因（“累”）を聞き手に確かめることによって、聞き手の様態の変化を気遣っているのである。そのため、例えば(11)ではその後に続く「もう少し我慢して。町に入れば、馬を二頭買ってそれに乗って行こう。」という会話の流れにつながっていく。(12)の“小心翼翼地探问着”からも話し手が聞き手に対し気を配っていることがわかる⁴⁾。では、会話文における“累着了”の場合はどうだろうか。

- (13) “我这病，看来是好不了了，这府里的福，我怕是享到头、再享不起了……”我忙劝她：“大奶奶说哪里话，您这病，不是一日好似一日吗？兴许是您今几个累着了，要不要我给您捶捶揉揉？”（刘心武 秦可卿之死）

〔私の病はどうももう治らないみたいです。この家での幸せもここまでだわ。〕私はあわてて彼女を慰めて言った。「奥様、何をおっしゃいますか。ご病気は一日ごとに徐々に良くなってらっしゃるじゃありませんか。恐らく今日はちょっとお疲れになっただけですよ。私が肩を揉みましょうか。〕

- (14) “看你精神气色不太好，怎么，在国外累着了？这种一周旅游，都是紧赶慢赶，恨不得睡觉来回看景点。你怎么不多休息几天啊？”
(刘猛 危机四伏第一季)

〔元気がないみたいだが、海外で疲れたのかな。こういう世界一周旅行はみんなスケジュールが厳しく、できることなら睡眠時間まで観光に充てたいほどだよ。なぜもうちょっと休みをとらなかつたの〕

まず波線部から、この場合でも病状や様態についての言及がなされていることがわかる。(13)では、“我这病～再享不起了”の発話から話し手の病状の深刻さが窺える。それに続く「私」の発話は「彼女」を慰めようとするものであり、そのため“累着了”を用いて「彼女」の病気に対し、「恐らく今日はちょっとお疲れになっただけですよ。」と原因を説明している。(14)は相手がなぜ体調を崩したのかについて客観的に分析している場面であり、ここでも“累着了”は後から説明を加える形で用いられている。但し、“你怎么不多休息几天啊？”からは相手を気遣う気持ちも読み取れるので、会話文における“累着了”の表現機能は陳述文の場合よりもやや複雑になっている。

以上の例文から、推測の会話文の場合でも“累着了”と“累了”との間に違いが存在することがわかった。“累着了”は陳述文の場合とほぼ同様の表現機能を果たしているのに対し、“累了”は聞き手の体調を気遣うことに重きを置いている。陳述文の場合の考察結果と考え合わせると、“累了”には“累着了”に見られるような表現機能が備わっておらず、「眼前の事実に対し原因を推測し、後から説明を加える」という働きは“累着了”に特有のものと考えられる。

4. 証拠性の観点からみた“累着了”と“累了”

3章では推測の場合に用いられる“累了”の例を取り上げ、“累着了”との比較を行った。ここでは、推測以外の場合における“累了”と“累着了”の用法上の差異にも注目したい。筆者が《CCL 語料庫》及び《亦凡公益图书馆》の二つのコーパスを使って両者の用例について調査した結果、“累了”は推測よりも以下の例のように「誰それが疲れを感じた」ということを述べるのに用いられることが多いが、“累着了”にはこの用法が見当たらず、“累了”から“累着了”への言い換えも不成立であることがわかった。

(15) a 他们量了我的脊背,测试了我的力量和移动速度。我真的很累了,所以还没测完他们就停止了。(CCL)

(彼らは私の背中を測り、さらに筋力と移動速度を測定した。私が本当に疲れていたので、彼らは測定を途中でやめた。)

b* 我真的很累着了,所以还没测完他们就停止了。

(16) a 他开始觉得累了,一直很疲劳。情况如此糟糕,连我都替他觉得累。(CCL)

(彼は疲れを感じ始め、ずっと疲労がたまってきたままだった。こんなに思わしくない状況の中にあっては、彼のことを思うと私さえ疲れを感じてしまう。)

b* 他开始觉得累着了,一直很疲劳。

(15) b が非文となるのは、動補構造(動詞+結果補語)としての“累着了”は程度副詞(“很”)と共起できないこととも関係しているが、“真的”や“很”をなくした“?我累着了,所以还没测完他们就停止了。”という文もやはり不自然である。(16) b が非文なのは“累着了”が一般的に“觉得”や“感觉”などの動詞と共起しにくいことと関係しているが、これについてはまた後でふれることにする。この2例からもわかるように、“累着了”は“累了”と違って「誰それが疲れた」ということを述べるための表現ではなく、目の前の表情や様子から「どうも疲れたようだ、きっと疲れているのだろう」ということを表すのに用いられているのである。以下では、

証拠性の観点から“累着了”に見られるこの表現機能を捉えてみたい。

4.1 証拠性について

まず、福田2011:246に基づいて証拠性 (evidentiality) という概念について簡単に紹介したい。福田2011は中国語における「静態形容詞+“不了”」という構造が表す意味を証拠性の観点から分析した論考である。その中で「証拠性」という概念について広義の立場から、「話し手が頭の中で考えたり想像したりしたことを表すのではなく、外部に存在する情報を観察したり取り入れたりしたことを通じて、その認識が成立していることを表す形式 (日本語記述文法研究会編2003:164)」と説明し、「話者の感覚以外の情報を通して得られた証拠を参照していることをもって、証拠性の表現とする」と定義している。福田2011は「静態形容詞+“不了”」が表す認識的判断は必ず何らかの情報源や根拠を基にしていることに注目し、従来は推測及び認識的モダリティ⁵⁾として大まかに捉えられていたこの形式を証拠性の表現として捉え直している。以下はその具体例である。

- (17) 史更新一定是离开了原来的地方，可是他往哪里去呢？既然他不能走路了，当然他就远不了，所以等伪军们走了之后，他就又在这附近寻找起来。(福田2011)

(史更新はきつともとの場所から離れただろうが、どこへ行ったのだろうか。彼は歩けないだろうから、当然そう遠くは(行け)ないだろう。だから軍隊が去った後、彼はこの付近をまた探し求めた。)

- (18) 周伯通呵呵笑道：“那就好啦，一个女孩儿若是浓眉大眼，黑黑的脸蛋，像我郭兄弟一般，那自然是美不了。”(福田2011)

(周伯通は笑って言った。「女が濃い眉で大きな目、黒い頬、まるで郭兄弟のようだったら、それじゃ、美しいはずはないだろう。」)

(17) の“远不了”は「遠くは(行け)ないはずだ」という判断を表しており、これは「彼は歩けない」(点線)という情報に基づく推論である。(18) の“美不了”は「美しいはずはないだろう」という推測を表している

が、これも点線の部分の内容、つまり「もし郭さんのような顔なら」ということを判断の根拠にしている。福田2011では“远不了”“美不了のような、何らかの情報源に基づく認識的解釈を表す表現を証拠性の表現とよんでいる。この観点から考えると、本稿の考察対象である“累着了”も証拠性の表現として捉えることができる。ここでもう一度(7) a、(8)の例を以下に取り上げ、(17)(18)と比較してみたい。

(7) a 不过，草包倒不像头要偷懒的驴，它并不东张西望，只是步态有些踉跄。它不是年纪大了，就是在此之前干了其他的活儿而累着了。

(8) 笑着笑着，头突然晕了一下，眼前先是一黑，然后是冒出来一片碎花。到底是年岁大了，累着了。他只好坐在报纸堆上，好好喘息一下。

(7) a、(8)における波線部は(17)(18)の点線部と同様、“累着了”という判断の情報源になっていることがわかる。3章では“累着了”の表現機能を「眼前の事実に対しその原因について推測し、後から説明を加える」としたが、証拠性の観点からみると、“累着了”はまさに、発話者が何らかの情報源に基づいて認識的解釈を行う際に用いる証拠性の表現である。“累着了”が「これはどうも疲れたようだ、きっと疲れているのだろう」に訳されることが多いのもこのためである⁶⁾。

但し、“累着了”と「静態形容詞+“不了”」との間に違いも見られる。(7) a、(8)では“累着了”は目の前の症状を情報源として、その原因についての認識的解釈を行っているが、(17)(18)における“远不了”“美不了”は予め提供されている情報源を基に、その帰結としての事態を論理的に推論している(福田2011:241)。つまり、両者が行う認識的解釈は異なる種類のものである。また、「静態形容詞+“不了”」はそれ自体で証拠性の表現として用いることができるのに対し、“累着了”の場合、認定・判断の気持ちを表す“是”と共に起ることが多い。このことから“累着了”は単独で証拠性の表現になっているのではなく、文の他の要素の力を借りながらそうした働きをしていることが見て取れる。

4.2. 認識と感覚という二つの捉え方

以上、証拠性の観点から“累着了”の表現機能を捉え直してみた。「人間が疲れている」ということを示す様々な情報源を基に認識的解釈を行うことは、“累着了”の表現機能上の最大の特徴といえる。3章では表現機能の面から推測の場合における“累着了”と“累了”との違いについて指摘したが、本節ではこのことをふまえ、両者の意味上の違いが一体どこにあるのかについて考えてみたい。

“累着了”と“累了”との本質的な違いは、結局のところ、同じ事態に対する捉え方の違いにあるといえる。認知言語学の大家であるラネカーの考えによれば、人間はある客観的な事実を言語化する際、必ず自分なりの捉え方 (construal) を言語に投影させるとい⁷⁾。construal については、「ability to conceive and portray the same situation in alternate ways」と説明する。要するに同じ状況に対する異なる受け止め方、描き方ということである。この考えに従えば、“累着了”と“累了”は、「疲れる」という事態をどのように捉えるのかという点において大きく異なる。すなわち、“累了”は「疲れる」ことを感覚として述べているのに対し、“累着了”はそのことを認識したときに用いる表現である。平たくいえば、話し手自身が疲れを感じ、「ああ疲れたな」と言う場合は“我累了”であり、自分以外の人が疲れた表情や様子を浮かべているのを見た場合は“你(他)累着了”となる。但し、感覚としての“累了”は必ずしも自分自身にのみ用いられるわけではなく、話し手が他者の感覚を主観的に推測して言う場合も考えられる。このことは例文(9)(10)において“累了”の主語が第三人称の“钱老板”“母亲”となっていることから見て取れる。

“累了”と“累着了”が同じ事態を感覚として述べるのか、それとも認識として述べるのかによって使い分けられているということがわかると、冒頭の例文(3)(4)において“累着了”と“累了”がなぜお互いに言い換えることができないのかも見えてくる。

- (3) a 和方耀学长讨论了一下午关于论文的写作思路，真的是感觉到有点累了。

b??和方耀学长讨论了一下午关于论文的写作思路,真的是感觉到有点累着了。

(4) a “唔,好——你自己弯腰小心——”宇文老先生说着,忽又发出了一阵轻咳。“爸爸,您又累着了!”宇文冰心忙上去扶着他到太师椅上坐下。

b??爸爸,您又累了!

感覚の表現である“累了”は“感觉”や“觉得”などの「感じる」ことを表す動詞と相性がよく、共起することが多いのに対し、認識の表現である“累着了”は“感觉”とは相いれないため、(3) b はほぼ非文である。一方、(4) a では波線部が「年取った宇文さんがせき込んでいる」ことを描いており、話し手が認識する上での根拠が示されているので、当然この場合感覚の“累了”よりも認識の表現である“累着了”の方が適切である。これらの例から、感覚と認識という二つの捉え方の違いが直接、両者の統語の面にも反映されていることが見て取れる。

5. まとめ

本稿は“累着了”と“累了”が実際にどのように使い分けられているのかという問題から出発し、推測の場合を中心に両者の表現機能について検証し、その結果“累着了”にのみ「眼前の事実に対しその原因について推測し、後から説明を加える」という表現機能が備わっていることがわかった。さらに証拠性の観点からそうした表現機能を捉え直し、“累着了”は人間の症状や様子などの情報源を基に、「どうも疲れたようだ、きっと疲れているのだろう」と認識的解釈を行う表現であることを明らかにした。それに対し、“累了”は話者が自分あるいは他人の「疲れた」感覚を述べるときに用いる表現である。

この考察結果は李2011の分析と符合するものである。李2011では“累着了”と“累了”との違いについて、「“累着了”では“累”が身体的悪影響の原因として導入されているにすぎず、単に人間が現にそうした状態にあることを指しているわけではない」と指摘した。「人間が現にそうした状

態にある」ことを述べるのは“累了”の役割であり、目の前の症状や様子に対する話者の認識的解釈を表す“累着了”において、“累”は実際の状態よりもそうした症状や様子をもたらした原因を表すためにあるといえる。

なお、李2011は「身体的悪影響」を表す“V着了”の表現機能を全体的に捉えた上で、“累着了”と“累了”との違いに言及したのに対し、本稿の考察結果は両者に特化したものである。“累着了”がもつ証拠性の表現としての働きの、果たして“V着了”表現全般に見られるものかどうかについての考察は今後の課題としたい。

〈注〉

- 1) 北京語を代表とする北方方言において、結果補語“着”は通常“zháo”または轻声の“zhao”に発音され、進行や持続を表すアスペクトマーカ―の“着”（“zhe”）とは区別されている。
- 2) この記述は刘月华等2001:542-543を参照している。「身体的悪影響」の事態に用いられる結果補語“着”の意味に関して、刘月华等2001:543は「用在某些动词或形容词后，表示动作或某种情况对人或事物产生了不良后果。（一部の動詞と形容詞の後に用いられて、動作あるいはある種の状況が人や事物に対し悪い結果を生じさせたことを表す）」と定義している。
- 3) この文が表現として整合性が低いもう一つの理由は、“在此之前干了其他的活儿”の部分で身体を疲れさせる外的要因が示されているので、“累了”よりも“累着了”の方が好まれるためでもある。“累着了”と“累了”の使い分けにはこの要因も大いに関係しているが、本稿では文や発話における両者の表現機能という別の側面から考察を行う。
- 4) 例文(12)において、波線部は“少爷！你是不是太累了？”という発話の推測の根拠にはなっているが、実は疲れた様子ではなく、怒りの表情を表していることが文の最後の“发这么大的脾气”から見て取れる。このことから、“累了”の文は波線部の表情についての直接の説明ではないことがわかる。“累了”はそうした表情の原因である怒りがさらに何によって生じたのかについての推測であるため、波線部との関係は“累着了”の場合と比べると間接的である。この場合、根拠と推測は直接的には結びついていないので、“累了”はやはりより主観的な推測を表すのに用いられる傾向にあるといえる。そのため、“累了”は以下の

ような推測の根拠が全く示されていない例にも用いられている。

・允珠望着一个空椅子，怯怯地问道：“嗯，我也……坐下来，行吗？”文珠赶紧把椅子拉了过来，说道：“累了吧，快过来坐下吧。你是自己一个人跑到这里的吗？”（郝群欢 欢乐时光）

（允珠が空いている椅子を見て、おどおどと尋ねた。「あの、私も…座って、いいですか」文珠は急いで椅子を引っ張ってきて、言った。「疲れたのかい。早くお座り。一人でここに来たのかな」）

- 5) 日本語記述文法研究会編2003:134では認識モダリティーを「情報伝達文の構成にあたって、その文によって示される事柄や情報に対する話し手のさまざまな認識的態度を表し分けるものである」と定義している。
- 6) なお、日本語記述文法研究会編2003では日本語における証拠性の表現として、「ようだ」「のだろう」などを挙げている。
 - ・道路が濡れている。どうやら、昨夜雨が降ったようだ。
 - ・パソコンの電源が入らない。壊れてしまったのだろう。このことから、“累着了”が証拠性の表現として用いられていることは日本語の対訳からも窺えることがわかる。
- 7) Langacker2008:43を参照。

〈参考文献〉

- 福田翔2011. 「“静態形容詞+不了”の意味と構造——証拠性という観点から——」, 『中国語学』 258:232-251
- Langacker, Ronald, W. 2008. *Cognitive Grammar A Basic Introduction*. New York: Oxford University Press
- 李菲2011. 「“身体的悪影響”を表す“V着zháo了”の表現機能」, 『現代中国語研究』 13:94-101
- 刘月华等2001. 『实用现代汉语语法』(增订本). 北京: 商务印书馆
- 日本語記述文法研究会編2003. 『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』. 東京: くろしお出版

〈用例出典〉

- CCL 语料庫 http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/
- 刘心武『秦可卿之死』. 北京: 华艺出版社, 1994年
- 王化清「头锅饺子」『山西老年』1998年第9期
- 亦凡公益图书馆 <http://www.shuku.net>